

# 生き残りへ果敢な挑戦

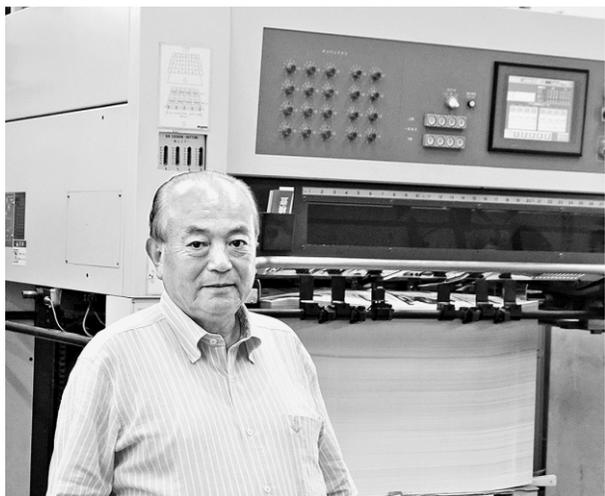
## 関西初の「LED-UV

### 水なし菊全判機」が始動

富士美術  
(大阪)

富士美術(小柳富士夫社長、大阪市東成区)の創業は1980年。印刷オペレータだった小柳社長が独立開業した。以来、確かな納期と品質で仲間仕事を中心に社業を伸展させてきたが、昨年3月、既設の菊全判4色機にLED-UVユニットを追加設備し、12月には全数紙面検査装置を新導入した。続いて今年6月にはダブルデッキ型の菊全判8色機にもLED-UVユニットを追加設備した上で、8月には両機を一挙に東レの「水なし」仕様に変えた。菊全判での水なしLED-UV印刷は関西では初めて。短期間にして、しかも思い切った革新的設備への更新だ。小柳社長に成算を聞いた。

## ワンランク上の工場に



「数年前からあれこれと情報は集めていた」という小柳社長。「一番の目的は、水とび、過乳化、裏移り、パウダーのボタ落ちなど品質に関する一切のクレームを限りなくゼロにしようということ。短納期かつ高品質要求がますます強まるご時世にあって、われわれ中小が生き残るにはこれしかない」と確信も明かした。

さらに、「職人技や長年の経験がモノをいうのが水やパウダー量の管理。したがって一人前になるには10年かかると言われる印刷オペレータだが、この設備なら2、3年で若手を育てることができるよう。現場の環境も格段に向上するから定着率も上がると判断した」と人材育成・確保面での目的も明かした。

新しい設備と仕様を立ち上げてから2ヵ月足らず。納期対応力の向上とともに、乾き不十分による後加工でのトラブル解消など速乾性が身上のUV印刷ならではの効果は予想どおり。さらに、水なしということ懸念された版汚れもなく、その大きな特長である見当精度の向上も期待どおりの仕上がりとなっている。

そして、「印刷機は両方とも10年選手で、しかもLED-UVという条件にも関わらず、版にまつわるトラブルは皆無で立ち上げもスムーズだった。あらためて水なし版の進化ぶりを実感している」という。

印刷品質面でも、「油性で刷ったものとの比較で一抹の不安もなくはなかつたが、ほとんど問題なく遜色のないものが刷れる」と評価する。これも、LED-UVで水なしという条件に適応したインキの改良によるもので、同社と長い付き合いのインキメーカーに感謝の意を表している。

「今後は厚紙、薄紙は言うまでもなく、より幅広くいろいろな仕事をやっていくつもり。その過程で多少の問題も出てくるだろうが、とにかくユーザーとメーカー一緒に解決していきたい」とメーカーに対する期待と信頼感も大きい。

「確かに投資額も小さくないし、材料費など5%のコストアップになるが、その分はクレームによる刷り直しが減ること、さらに品質と生産性の向上による仕事量の増加で十分ペイすると見込んでいる。とにかく、きれいな仕事はきれいな現場から生まれる。当社は昔から何事もオープンだ。百聞は一見に如かず、クリーンで環境に優しい現場をぜひ見学していただきたい」とワンランク上の工場見学を歓迎している。

「特殊原反にも最適「アイデアマン」を自

他ともに認める小柳社長、これまで紙以外の特殊原反を使ったさまざまなアイデア製品を世に出してきている。

その一つが石灰石を原料にした「ストーンペーパー」だ。紙と同様の性質を持ち、より優れた強度性と耐水性を持つ。その特長を生かしてクリアファイルや紙袋などで使われている。

「国内ではウチが一番早かったのではないかとはいえない。国内でもさまざまな独自商品を開発してきたが、その一つが防災グッズ。助けを求める呼び笛の中に自分の血液型などを記したストーンペーパーを収納したセット商品はノベルティとして好評を博している。その中の一つは、大阪市内の複数の学校で実際に採用されているとのこと。



インライン紙面検査装置を搭載した菊全4色機



特殊原反製品(一部)